

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団



タウンズビル市 友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 2年

金子 利吉

Rikichi Kaneko



私とディレンさんが映っている写真

今回、私はタウンズビル市友好親善訪問団としてオーストラリアに行きました。

今回は観光ではなくホームステイという事なので私はコラドファミリーのみなさんにお世話になりました。最初は自己紹介でしたが、そこからもう行きつまりました。自分の事までは言えたのですが、家族の自分がよく分からない事まで聞かれました。

しかし、そこは辞書で調べたりしてなんとか切り抜ける事が出来ました。

私は「今日からどうしたら毎日楽しく過ごせるのか?」どんな話題をだせばいいのか?」など色々な事を考えていました。そしたらとうとうやって来た食事の時間です。今日は初めての本食だったので不安な会話を少しずつしながら食べました。とてもおいしかったです。それに不安だった会話もよく話を聞いていたら理解が出来る事が分かったので、楽しく安心して会話が出来ました。

翌日、私は学校に行き、初めての海外での授業をしました。それで私は最初に日本の授業と比べてしまいました。言っただけにはないと思いますが、やはり日本よりオーストラリアの方が楽しかったです。私は日本の授業もこうすれば良いのかなと思いました。



3人組のオーストラリア人



法被を着た人の写真

そして、学校が終わり家に帰って、今日は私が日本語についてホストファミリーのみな様に教えてあげました。基本的に人が聞いてうれしいと思う言葉を教えました。とてもよろこんでくれたので、うれしかったです。

それから二日間、毎日外出をしました。動物園に行ったり、キャッスルヒルに登ったりしました。カルチャーフェスタの時間が外出した中で一番たのしかったです。法被を着たみんながすごくかっこ良かったです。

翌日ー私は、今日が最後の学校なので色々な人達と仲良くなるうと思いました。

そして見事に四〜五人の人達と仲良くなりました。その後、授業に参加。とても先生がおもしろい人でクラスの人達がすごくやさしかったです。

私はオーストラリアは自由度が高く、日本以上に穏やかだと実感しました。

そして、その日の晩にお土産を渡して私は「もう自分のやる事は終わった。後は感謝の気持ちを伝えるだけ。」と思いました。

翌日ー今日が最終日でとうとう別れの時がきました。私はホストファミリーの人達にメールアドレスと自分の「感謝」を渡し、それでサヨナラをしました。自分はとてもかなしかったです。五日間があつという間でした。

私は今回の訪問で大切な事をたくさん学びました。その経験を活かし、学校や家庭で役に立たせたいと思いました。九日間で色々な事を発見、学習出来て本当によかったと思います。

また機会があれば是非行きたいと思います。今回の訪問に関わった皆様、本当にありがとうございました。

動物園の写真





ピラボン・サンクチュアリで、ワラビーに餌付け

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 2年

深町 優太

Yuta Fukamachi



乗継地のシンガポールを経て、オーストラリアのブリスベンに到着した後、直ぐに目的地であるクイーンズランド州北部のタウンズビル市へ行きました。市長表敬訪問では市長がスピーチをされましたが、内容を理解するのがとても難しかったです。

キャッスルヒルでタウンズビル市を眺めた時の第一印象としては、多くの自然が残っている町だと感じました。

ホストマザーのブルーさんに出迎えられ、ホームステイ先に連れて行ってもらいました。ホストファミリーのリック、さらに韓国留學生のエヴァン、パプアニューギニア留學生のクレイグを紹介され、歓迎を受けましたが、緊張のあまり挨拶程度の会話しかできず、今思えば悔しい気持ちで一杯です。

カルバリー・クリスチャンカレッジでは、英語の研修を受けました。中学で勉強中の内容と大きな差はなく、比較的、理解することができました。夜の学園祭には、ホストファミリーと一緒に行きました。中学校の文化祭とは異なり、お菓子や雑貨を扱う店もあり、とても活気のある、にぎやかな学園祭でした。そこでは、出店している人や、通学している人と話すことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

翌日の午後は、カルチャーフェスティバルに参加しました。重い御輿を担ぎ、約一キロメートルもの行程を歩いた為、充実感と達成感が得られました。会場で食べたハンバーガーは、日本のものくらべてボリュームがあり、とても美味しかったです。



翌日は、ビラボン・サンクチュアリに連れて行ってもらいました。コアラやウオナバットを抱いて写真撮影したり、他にもワラビー、蛇、ワニなどに直接触れることができました。日本では経験できない体験ができ、とても感激しました。その日は、レストランで夕食をとりました、その時、ホストファミリーのご子息がロシアからの留学生を連れて来られ、五力国の人が一同に介することになりました。

食後、再度キャッスルヒルに行きました。辺りが暗く、町の明かりが点灯したところは、とても幻想的な光景でした。この頃には、最初とは比べものにならない位、会話が楽しめるようになっていま



した。夜、「今日で最後の夜なのか」と考えると、少し寂しい気持ちになりました。翌朝、別れ際に、英語で「またお会いしたいです」と会話を交わし、思い出が詰まったタウンズビル市をあとにしました。

その後を訪れたシドニーは、タウンズビル市よりもかなり寒く、広大な国だと実感し、また、南半球が冬であることを思い出しました。

最後に、今回の訪問では、日本での生活では得られない貴重な体験ができ、また多くの事を学ぶことができました。このような機会を与えてくださった関係者の方々に深く感謝いたします。



1. シンガポール・マーライオン公園にて
2. 巨大ワニへの餌やりを見学
3. ビラボン・サンクチュアリで、ワニと一緒に
4. シドニー・オペラハウス前にて全員集合
5. ホストファミリー・ルイス家の方々



私とイザベルとキャシー

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口大学教育学部付属光中学校 2年

東 美樹

Miki Azuma



1. ホストファミリーの大きな家
2. ホストファミリーの子と
3. 私と大石さんのファミリーで記念写真
4. 私の泊まったイザベルの部屋

「もう飛行機から降りたくない！」
福岡空港を離陸してすぐに、私は思った。初めてのホームステイに行くという事で不安がとてつおりの、私は冷静になれなかった。「ホストファミリーは、どんな人だろう」「言葉がきちんと伝わらなかったら……」いろいろな思いが頭をよぎった。不安がつつたまま、オーストラリアに着陸した。だが、空港に着いたという感じが全くしなかった。まだ日本にいるかのように、ふわふわしていた。

その後、私たちはタウンズビルを観光し、いよいよホストファミリーと対面する時が来た。次々にホストファミリーが迎えに来て残り四人となった。私は、本当に不安でお腹が痛くなりそうだった。ついに私のホストファミリーが来た。とても優しくそうなお母さんとかわいい女の子（イザベル）だったので、一瞬にして緊張が解けた。

車で沢山イザベルと話をしていたら、あつという間に家に着いた。予想していたよりずっと大きな家だった、私はイザベルの部屋を貸してもらったが、部屋には沢山の人形がおいてあり、その目が気になり怖くてなかなか寝付けなかったが、思っていたより言葉が理解できたことがうれしかった一日目だった。

次の日の朝、私はイザベルと一緒に車に乗りバス停まで行き、そこから歩いてつれられて来たところは、イザベルの友達の「キャシー」という子の家だった。そこにホームステイしていたのが、一緒にオーストラリアに来ていた大石さんだった。知っている子がいたのでとても安心した。おそらく、ホストファミリーが気をつかってくれたのだろう。そして私は大石さんと登校することが出来た。帰りは迎えに来たイザベルに、「今からキャシーの家に行つて、遊んで帰るんだよ!」といわれたので、とても嬉しかった。

大石さんとは、ほとんど一緒にの毎日だった。余りにもホストファミリー同士の仲が良かったので、親戚なのかな?とも思った。カルチャーフェスタに行つたり、一緒にマクドナルドにも行つた。その後は、近所でやっているフェスティバルに行つて、三色の「シャーベットジュース」を飲み、とても美味しかった。

ホストファミリープログラムでは、最高の思い出が出来た。大きなショッピングモールに行き、皆で買い物をした。イザベルにプレゼントを買つたらとても喜んでくれた。その夜、海に連れて行ってもらったが、とても寒かった。最終日は、私のホームステイの家で大石さんのホストファミリーと一緒に夕食を食べ、皆で記念撮影をしたり、楽しい時間を過ごした。

ついに、お別れをするときが来てしまった。イザベルがとても泣いたので、私も悲しくなった。私は、本当に良い家族に出会えたと思った。

この出会いや思い出は、一生忘れない宝物になった。



平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

コアラを抱っこ。毛がふさふさしていて
とても気持ちよかった。

タウンズビル市 友好親善訪問団 に参加して



山口大学教育学部附属光中学校 2年

田邊 斗武

Tomu Tanabe

僕は、今回この企画に参加させて
いただき初めて体験したこと
がたくさんあって、本当によかつ
たと思います。

初めての外国、外国人の方々と
の会話、ホームステイ、長時間の
フライトなど・・・僕にとって一
生忘れることのない貴重な体験
がいっぱいできました。ありがと
うございます。

オーストラリアのタウンズビ
ル市に着いて、ずっとわくわくし
た気持ちでした。そして、い
よいよホストファミリーが発表
され対面という時、僕は急に不安
がこみあげてきました。ちゃん
と会話ができるのか？僕の想い
が伝わるのか？など、ちよっと考
えてしまいました。

僕のホームステイ先は、ワーコ
ンさん一家です。家に帰るまでは、
とても気持ちいい空気が流れていま
した。

でも、家に入るとみんながどん
どんしゃべってきてくれて、ちよ
っと焦ったけどジェスチャーでな
んとか会話できました。

ホスト先のダニエル君と学園祭で楽しんだ!!

二日目は、初めて外国の学校に登校し、英語の授業を受けました。学校で、日本の友達と出会った時は、ほっとしました。なぜほっとしたのか自分でもわかりません。

その後、学園祭の準備をしました。学校が終わった後、ホスト先のダニエル君と一緒に学園祭に行きました。ボクシングやゴーカートなど、いろんなことをしてとても楽しい時間を過ごしました。

三日目は、午後からみんなで「おみこし」をかついで一キロメートルちかく歩きました。きつかったけどゴールした時の達成感はずかかったです。夜は、キャッスルヒルに連れて行ってもらいたいタウンズビルの夜景を楽しみながら、お父さん達とハンバーガーを食べました。その夜景は、神秘的でもすごくきれいで、今でも鮮明に覚えています。その後も、お父さん達は僕の為に、撮影スポットにいろいろ連れて行ってくれました。本当に感謝しています。

四日目は、動物園に行きました。ここにはオーストラリアならではの、動物がたくさんいて、びっくりしました。なかでも一番印象に残った動物はコアラです。コアラを抱っこすることができて、すごく感動しました。とっても可愛かったです。

最終日は学校に行き、お別れ会をしました。折り紙を教えてあげたいのですが、なかなか伝わらなくて苦労しました。

夜は、家でキャンプファイヤーしてもらいました。炎が音を立てて燃えているのを今でも覚えています。

いよいよお別れの朝がきました。お父さんは朝早く仕事に行っていました。お母さんに「come back.」と聞かれ、僕は「YES」を答えました。



バスが出発しようとした時、お父さんが戻ってきてくれて、少し遠くで手を合わせていました。僕はお別れする悲しさや感謝の気持ちで胸があつくになりました。ワーコンさん一家にはほんとうによくしていただき、とても感謝しています。

シンガポールという国、シドニーという街そしてタウンズビル市、どの街もすごく印象に残っています。

僕は将来、立派な大人になって、いろいろな国に行ける仕事につき、世界中に行ってみたいと思っています。そして、自分の力でもう一度オーストラリアに行き、ワーコンさんファミリーに会いに行こうと思います。

この夏僕は、すごく大きな経験ができました。一生忘れることのない、夏の思い出です。

ありがとうございました。

1. シンガポールのマーライオン。思っていたより小さかった。
2. キャッスル・ヒルからの景色。とてもきれいだった。
3. シドニーのオペラハウス。芸術的で感動した。
4. 最終日にキャンプファイヤーをもらった。家族に感謝。
5. みこしをかついで歩いた。みこしの重さにビックリ！！



MY FRIENDS

カルバリーの学校で仲良くなった友達です。みんな明るく優しいので、すぐに打ち解ける事が出来ました。ランチでは自分の趣味の話や恋の話など日本の友達と話すときに色々な会話ができました。とても嬉しかったです。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

香田 朱津保

Shizuho Koda

「世界は広い」

私が今回のこの訪問で一番強く感じた事です。

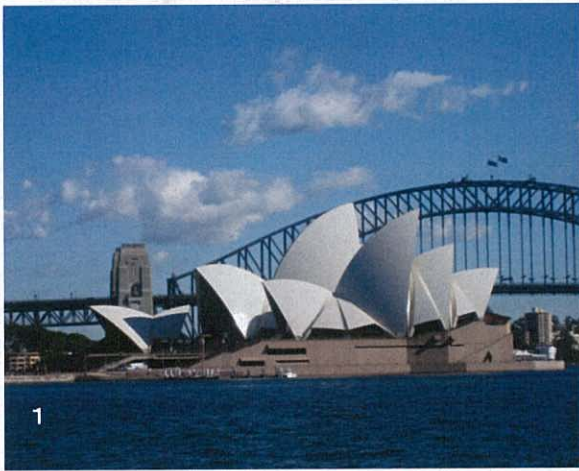
日本を飛び立ち、オーストラリアという初めての土地に降り立った瞬間、何とも言えない嬉しさが込み上げてきたことを今でもしっかりと覚えています。ここで新しい経験を経験することができると思いとてもワクワクしていました。

はじめは、日本人の友達と別れ、自分のホストファミリーの家へ着いてから、英語しか話せないこと、なかなか話が通じないこと、近所を全く知らないことに激しい孤独を感じていました。そして、周りに助けを求めることのできる人がいないという寂しさもついついばかりでした。

しかし周りの人たちは皆、いつでも熱心に私の話に耳を傾けてくれたので、もっとたくさん話したいと思い、いつの間にか孤独を感じることはなくなっていました。英語をスラスラとは話せないので単語を並べ、身ぶり手ぶりで伝えようと努力をしていました。そんな私を元気づけてくれたのは、「完璧な英語を話さなくていいよ」というホストファミリーの言葉と話を楽しそうに聞いて私に見せてくれる笑顔でした。

いつも私は周りの人の優しさに助けられていました。だから、こうして無事にホームステイを終わらせられたのだと思います。心から感謝しています。

また、国際交流も盛んに行われました。私が三日間通ったタウンズビルの学校にも色々な宗教、色々な国籍の人たちがいました。その人たちと交流して、自分の知らないことがたくさんあり、わからないところもたくさんあるということに気付きました。八日間、オーストラリアにいただけで、世界をこんなに広く感じると思いませんでした。



1. いつか行ってみたいと思っていた、憧れのオペラハウスです。3つの建物が組み合わさり、1つのオペラハウスとなっているようです。建物の構造が芸術的でとても美しかったです。館内も所々にちょっとした工夫があり、楽しむことができました。



2. よく写真で目にするマーライオンを間近で見る事が出来て、感動的でした。すごく速いスピードで水が出ていて、とても綺麗でした。



3. キャッスルヒル:キャッスルヒルの頂上から見る景色はとても素晴らしいものでした。海が青く澄んでいて日本で見る事ができないような気がしました。



これは市長表敬の一場面です。私はこの会でスピーチを担当させていただきました。タウンズビルの議長様や議員様方がお褒めの言葉をかけてくださったので、とても嬉しかったです。



お世話になったグリッグ家
グリッグ家のみなさんは、いつも明るく優しいので一緒にいると自然に笑顔になりました。またいつか逢えたらと思います。その時はもっと英語を話せるようにしておきたいです。

私には知らないことがたくさんあります。ホームステイ中にホストファミリーで行った教会の宗教のことも、仲よくなった人たちの母語、習慣のことも全くわかりませんでした。自分がとても情けなかつたです。知らないことだらけだったけれど今では多くの知識をもつことができました。

ですが、世界はもっともっと広いです。西へ東へ北へ南へ知らない場所、言語がたくさんあると思います。

将来、国境なき医師団として世界中を飛び回って人々を救いたいと考える私にはまず、もっと世界を知る必要があると思います。一生懸命に勉強をして世界を見ることのできる大人になりました。

この訪問団に参加させていただいて私の世界観はとても広がりました。とても素晴らしい経験になりました。ありがとうございました。



ホストファミリー宅で
家ではゲームをしたりDVDをみたりして過ごしました。



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

廣松 直亮

Naoaki Hiromatsu

記念すべき友好都市二十周年に参加できて大変嬉しく思いました。文化や言葉の違う国での生活に不安もありましたが期待の方が大きく楽しみでした。どちらかといえば、僕は英語が苦手ですが、精一杯がんばってみようと思えました。タウンズビルにつくと、緑が多く道路も広く土地の広さを実感しました。

ホームステイ先に行くまでに少しの時間待つことになりました。その間にもいろんな人が僕に声をかけてくれます。僕のホームステイ先は孤島でした。そこは自然がいっぱいでなんだか空気が透き通っているようで心地よく感じました。自然の動物もたくさんいることに驚き全く違う世界にきたような気がしました。

ホームステイ先には同じくらいの年代の女の子の子そしてその友達が僕を出迎えてくれました。恥ずかしがらず、挨拶をかわずと、あつという間に友達になれた気がしました。なるべく自分から声を掛けようと決めていたので、持っていたお土産の説明やゲームでコミュニケーションをとりました。

学校までは一時間かかるので、朝は少し早く起きなければなりません。いつも寝坊の僕も目覚まし時計で起きて出かける準備を早めました。日本では考えられない僕の行動です。船に乗り、バスに乗って学校に行きます。船の中では、学校は違う人たちもたくさんいましたが、トランプをしたりゲームをしたりしていきました。多くの人と触れ合うことができてよかったです。

二日目の学園祭のパフォーマンスは想像以上で、学校での行事とは思えませんでした。最後には花火もあがり、驚きました。

休日には家族でサファリパークや海に行き、コアラを抱くとオーストラリアにいるんだなあと実感しました。海は透き通る青さですごくきれいで、日本の海では見たことのない青さでした。そしてライブに行きましたが、全く分かりませんでした。それはそれでみんなと盛り上がることができました。

ホームステイの五日間は本当に楽しく過ごすことができてよかったです。しかし、やっと慣れてきたところに帰るような気がして寂しくも思いました。生活していくとみんな優しく、人の温かさを感じることができました。そしてあの大自然の中で生活できることを少しうらやましくも思いました。

七泊九日は本当にあつという間で、夢をみているような時間でした。この経験を無駄にせず、これからの生活を充実した日々にしていきたいです。



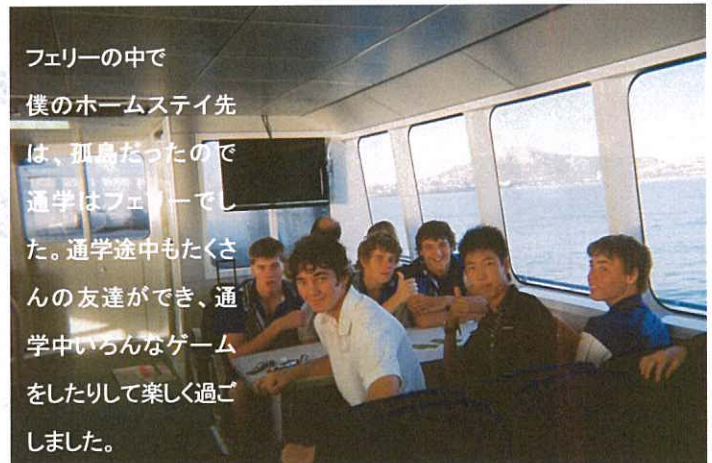
ホストファミリーと別れる時
コミュニケーションもとれてきたのに残念な気持ちでした。



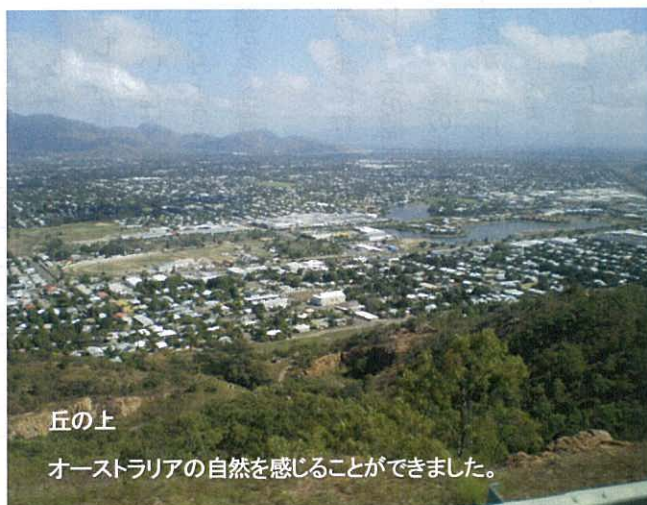
夜のバスケット
家の近くにバスケットボールのコートがあり、友達とバスケットをして盛り上がりました。



カルチャーフェスタで
とても盛大なお祭りでした。



フェリーの中で
僕のホームステイ先は、孤島だったので通学はフェリーでした。通学途中もたくさんの友達ができ、通学中いろんなゲームをしたりして楽しく過ごしました。



丘の上
オーストラリアの自然を感じることができました。



シンガポールの港で

平成 22 年度
Townsville
友好親善
訪問団

学校の調理実習の時間に仲良くなったミッチェルです。
とても陽気で、色々なことを話してくれ、私たちを楽しませてくれました。

2010/08/23



タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

長谷部 真世

Mayo Hasebe

私は今回、タウンズビル市友好親善訪問団に参加し、素敵なホストファミリーのダニエルさんご家族や、たくさんの友達や仲間との出会いが、私の人生観を変える、大変有意義なものとなった。

このホームステイの話は、母から話を持ちかけられた。最初はオーストラリアに行ける喜びよりも、一人で海外へ行くことや、言葉の壁による不安の方が強くて、行きたくなかった。そんな不安を抱いたまま、八月十八日を迎えたのである。

しかし、そんな不安はタウンズビルに到着した途端に、ちっぽけな不安に変わってしまった。青く澄んだ空に、コバルトブルーの海、そしてタウンズビル市民のとても温かいもてなしに、私の気持ちは、日本では味わえないほど晴れ晴れとしていた。

私を引き受けて頂いたホストファミリーはダニエルさん、アンナさんご夫妻に、三歳のマックスウエルと一歳のリアの四大家族だった。

アンナさんは、とても親日家で、玄関には掛け軸が飾られていた。マックスウエルは、私のいとこと年が近かったこともあり、気軽に英語で話が出来た。それが、自信につながり、ダニエルさんと、タウンズビルの事や、オーストラリアの文化や政治のこと、またそれぞれの将来の夢について時間を忘れるくらいに夜遅くまで語り合った。



2. 私のホストファミリーです。日本の文化にとっても興味があり、日本語もお上手でした。このホストファミリーに出会えて本当に良かったです。

1. オペラハウスをバックにみんなと撮った写真です。短い期間だったけど、みんなと過ごせて本当に楽しかったです。大切な思い出をありがとう。



3. シンガポールのマーライオン公園で撮った写真です。シンガポールのきれいな町並み、そして素敵デザイン建築物に感動しました。



4. 学校で仲良くなった友達と先生です。とても親切でたくさんお話をしてくれました。ずっと仲良しでいたいです。



コミュニケーションの楽しさは、それだけでは私の気持ちがおさまらず、ご近所の方々や、学校の先生、生徒にも積極的に声をかけて、色々な話をした。

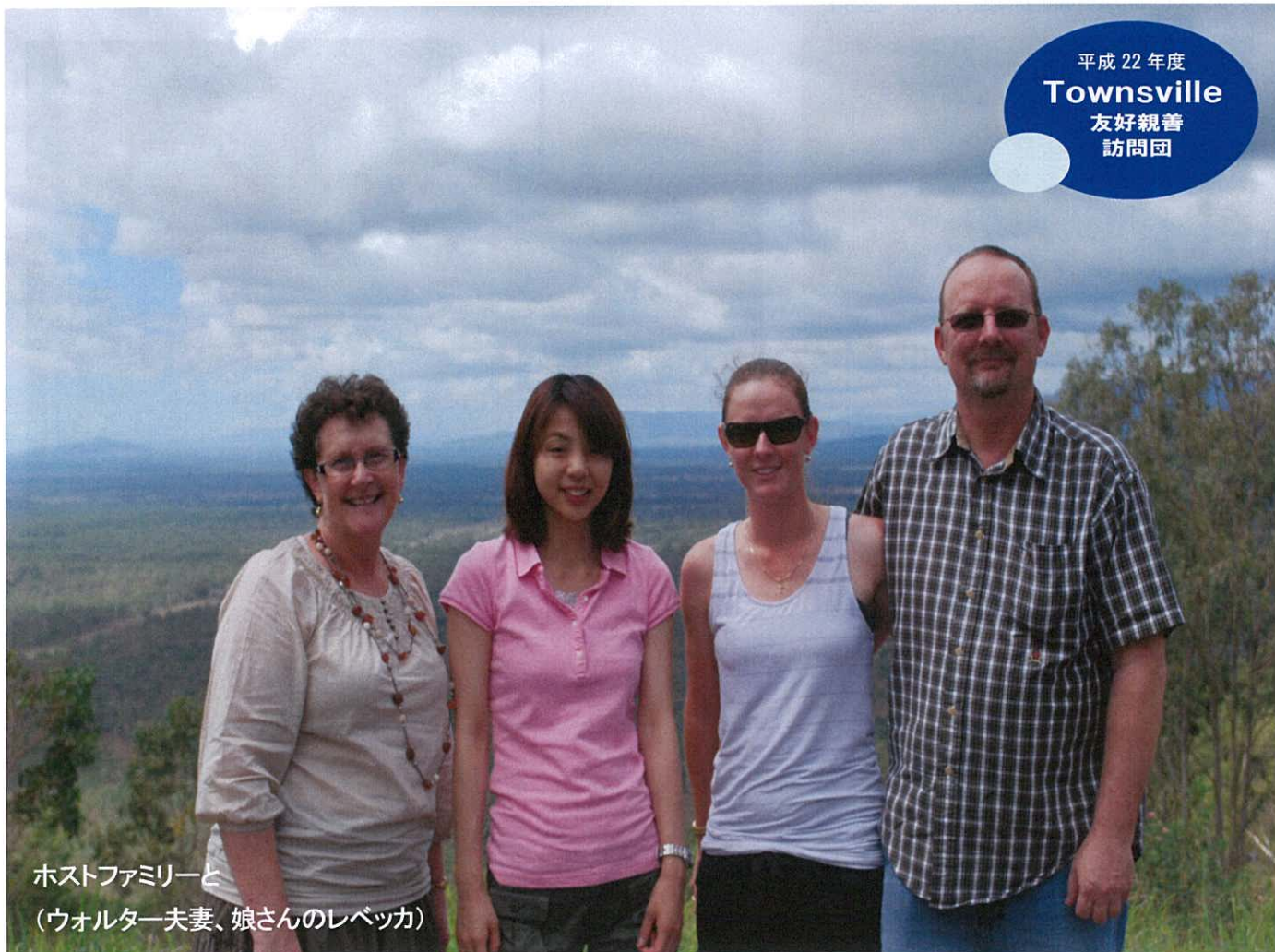
異文化を知ることが、私の価値観を豊かにしてくれ、毎日が楽しかった。

ダニエルさんご家族の毎日の生活は、極めてありふれた生活であったが、毎日がとても楽しかった。朝は、リアの泣き声で一日が始まる。マックスウェルと一緒に朝食をとり、ラジオがかかっているダニエルさんの車で学校に通学した。昼食はアンナさん手作りのサンドウィッチを食べた。帰宅後は、夕食を作る手伝いをしながら、マックスウェルの子守をした。

休日は、ダニエルさんが所有する船で、魚釣りに行った。私は魚釣りをするのが初めてであったが、何とか魚を釣り上げることが出来た。日本の魚に慣れている私にとって、釣った魚の味は決しておいしいものとは言えなかったが、自然の恵みの恩恵を受けて、私は生きているんだと改めて感じた一日であった。

別れの時にアンナさんが、「あなたを忘れない。」と言ってくれた時には、思わず涙が溢れて止まらなくなってしまった。

私は今回のホームステイに参加させてくれた両親に大変感謝している。沢山の仲間に出会い、コミュニケーションの素晴らしさを教えてもらった。本当にありがとうございました。



ホストファミリーと
(ウォルター夫妻、娘さんのレベッカ)

タウンズビル市友好親善訪問団に参加して

健康福祉部障害福祉課

清水 亜希子

Akiko Shimizu



今年六月、同行者として正式決定の連絡を頂いた時から、私はタウンズビル市との間に不思議な縁を感じていました。十五年前、市民文化交流訪問団に、私の母が参加させて頂き、初めての外国訪問とホームステイは、母に大きな感動を与えました。「とても優しく良い人達だった!」と、外国人とのコミュニケーションに対する苦手意識を払拭させる体験でした。この母の言葉を、十五年後、私も同じ場所で体験することになるなんて、その時は想像もしていませんでした。母と違うのは、私は市職員という立場で、二つの役割を持つていたことです。一つは現地の人々と交流を深めること、二つ目は団長として団員を見守ることです。交流の一步であるホストファミリーとの初対面。それぞれホームステイ先に向かう団員に「また明日、学校でね!」と声を掛けて送り出していると私の名前が呼ばれ、一人の女性が現れました。彼女の、少し緊張した、しかし穏やかな笑顔を見て、不思議な安心感を覚えました。それからの滞在中、彼女達夫婦はいつも私をリラックスさせてくれる存在でした。私の拙い英会話を真剣に聞き、私が理解しやすいように話してくれ、「私は日本語が全くわからないのに、あなたは英語で会話できるなんて、素晴らしいわ!」と常に自信をもたせてくれるのです。彼女達は、私の団長という立場を理解し、全面的にサポートをしてくれました。私が団長としての役割を十分に果たせたかについては自信が持てない部分もありますが、私が二つの役割を務められたのは、間違いなく素晴らしいホストファミリーの存在があったからです。



2



1

1. パレードの後、他の参加団体の方と記念写真
2. ビラボンサンクチュアリでコアラを抱っこ
3. 15年前母がお世話になったビル&パイを訪ねて
4. カルバリークリスチャンカレッジお別れ会にて(校長先生とブリュさん)

そして、九日間を共にした団員達の存在にも、実は助けられていたことに気付きました。彼らは、タウンズビルの解放的な街の風景のもとで、初日から活発的に見えました。が、やはりホストファミリーとのコミュニケーションには不安な気持ちを抱いているようでした。しかし、彼らの表情は日毎に変化していき、特に、終日ホストファミリープログラムの日が明けた学校での朝、「二日間どうだった？」と尋ねた時の団員達の笑顔は、大変印象的なものでした。朝の日差しの中、弾けるように「楽しかった！」と返ってきた笑顔は、本当に輝いていました。各家庭で過ごし方は違ったようですが、それぞれ拙いながらも、一生懸命コミュニケーションを試みて、素晴らしい時間を過ごせたのでしよう。全て順調だったわけではありませんが、みんなが元気に活動してくれた姿は、私にとって「元気」の源となり、力を与えてくれたと思っています。

オーストラリアの旅は終わり、青少年訪問団は解散しましたが、私達の前には「国際交流」という道が続いています。これからの私達に大切なことは、お世話になった方々の期待に応えるためにも、今後、この貴重な経験を活かし、様々な形で国際交流の場に関わり続けていくことだと思っております。そうした意志や活動が、周囲にも波及して国際化の輪を駆け、姉妹都市との友好関係がさらに深まることや、市の国際化の進展に役立つことを願っています。

最後になりましたが、今回の訪問で出会えた全ての方々と、団員達と、貴重な経験の機会を与えてくださった関係者の皆様に、心から感謝を申し上げます。
ありがとうございました。



4



3